

学力を身につけるために

- 「学習の3段階理論」とは -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：学校の定期テストで100点を取ったり、進学を希望する学校の入学試験や資格試験・国家試験などで合格点を取ったり、社会で生活するのに役に立つ「学力」を身につけるには、どのような勉強の仕方をしたらよいのですか。

A：(林明夫。以下省略)いろいろな学び方があると思います。開倫塾でお勧めするのは、学習を「理解」、「定着」、「応用」の「3段階」に分けて、各段階にふさわしい勉強をすることです。開倫塾では、これを「学習の3段階理論」と名付けました。一生役に立つ学び方ですので、「人生の成功」のために、開倫塾に在籍する間に正確に身につけることを希望します。

学力を身につけるには、「読書による熟慮・熟考・省察・自省する能力」と、「学び方を学ぶ能力」が欠かせません。「学習の3段階理論」は、「学び方を学ぶ能力」を身につける上で役立つと考えます。

Q：第1段階の「理解」とは何ですか。

A：「理解」とは、「うんなるほどとよくわかる、納得する、腑(ふ)に落ちること」です。

(1)「理解」は、学校や開倫塾などの「授業」でもできますが、一人で学ぶ「自習」でも可能です。

(2)そこで大切なのが、「授業」の受け方、参加の仕方と、「自習」の方法です。

「授業」中は、姿勢を正し、手を机の上に置き、先生の目を見ながら、まずはしっかりと先生のお話をお聴きしましょう。また、先生の指示に従い、授業中の活動に積極的に参加しましょう。

必要なことは、どんどんノートにメモを取り続けましょう。(授業が終わった後、勉強しやすいように「ノート整理」をすることも大切です。)

*「ノート整理」の仕方も身につけましょう。 。か生

授業のれ欠席、遅刻、早退」や、授業中の「忘れ物、私語・おしゃべり、居眠り、ボーッとしていること、携帯電話、徘徊(はいかい)」などがなぜよくないのか考えたことがありますか。

それは、「理解」の妨げとなるからです。折角、先生が皆様により授業をしようとする時間もかけて準備をしても、皆様が教室に存在しなかったり、存在しても気持ちが授業に集中していなければ、また、忘れ物があれば、「理解中ば! 整0身理そた忘推の滋は方積 ま いか

(1)教科書などを「自習」していて、よくわからなくなったらどうするか。「語句」の意味がよくわからなくなったら「辞書」や「事典」を用いて調べること。内容がよくわからなければ「参考書」で調べることをお勧めします。「調べたこと」は、「ノート」に「メモ」をしておくことも大切な勉強方法です。

*「辞書」「事典」「参考書」、学校の「図書室」、公共の「図書館」の使い方を少しずつ身につけましょう。

(2)授業後、つまり復習として「自習」をしたがどうしてもよくわからない、「理解」できないときは友達に「これはどういうこと」と相談したり、それでもわからなければ学校や開倫塾の先生に「ここがわからないのですが」と遠慮なく質問しましょう。

(3)授業前、つまり授業の予習として「自習」をしたがどうしてもよくわからないときは、何がよくわからないかをはっきりさせた上で、授業に臨みましょう。「予習」は、「何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨むためにすべきもの」と言えます。

Q：よくわからないところを友達に聞くのは、よいことなのか。

A：「これはどういうこと」「これはどんな意味」と気軽に友達に聞いたり、「これはこういうことかもしれないよ」と教え合うことは素晴らしいことです。よくわかっている人は、友達に教えることでさらに学力が「定着」し、よくわからない人は、「理解」ができるからです。皆様も、このような「学びの共同体」を毎日5分間でもよいですから作ってみましょうね。

Q：第2段階の「定着」とは何ですか。

A：「定着」とは、一度「うんなるほど」と「理解」したことを身につけることです。「定着」には、3つの内容があります。

(1)「定着」の第1は、一度「うんなるほど」と「理解」したことを、何も見ないでスラスラ口をついて言えるまでになることです。つまり、「暗誦(あんしょう)・暗唱(あんしょう)」です。

「暗誦・暗唱」ができるようになるために一番よい方法は、「声を出して読むこと」、つまり「音読」です。何十回、何百回も「音読練習」することをお勧めします。

(2)「定着」の第2は、一度「うんなるほど」と「理解」したことを、何も見ないで正確に楷書(かいしょ)で書けるまでにするということです。そのための最も効果的な方法は、「書き取り」です。そこで、何回も、何十回も書いて覚えること、つまり、「書き取り練習」をお勧めします。

(3)「定着」の第3は、一度「うんなるほど」となぜそのような答えになるかが十分に「理解」できた「計算」や「問題」は、その「計算」や「問題」を見た瞬間にパッパッと条件反射で正解が出るまでにするということです。そのためには、一度やった問題を何回も、何回もやり直すこと、つまり「計算練習」や「問題練習」が大切です。「計算・問題練習」をお勧めします。

*開倫塾では、この「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」を「定着のための3大練習」と呼び、皆様にお勧めしています。

Q：第3段階の「応用」とは何ですか。

A：「応用」とは、「理解」、「定着」させたことを用いて、学校の定期テストで100点満点が取れること、入学を希望する学校の入学試験などで合格点が取れること、社会で役に立てることです。

(1)学校の定期テストで100点を取るには、まずは学校や開倫塾の授業にしっかりと取り組み、「理解」をする。次に「定着のための3大練習」を徹底的に行い、「定着」を図ればOKです。試験範囲をよく「理解」した上で、「完全丸暗記」することです。

(2)入試等で合格点を取るには、その試験で「過去に出題された問題(過去問、かこもん)」を5～10年分実際に解いてみる。同じ年度の過去問を5～6回やり直すことが大切です。そして、間違えた答えについてなぜ答えを間違ったのか、その原因を自分で分析することです。これを、開倫塾では「誤答分析(ごとうぶんせき)」と呼んでいます。

(3)「応用」の第3は、生涯にわたり社会での生活や活動に役立てること。これが、学習の最終目標と考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：学力を身につけるためには、「新聞を含む読書」により、「熟慮、熟考、省察、自省する能力」と「批判的思考能力」を身につけることが重要です。これぞという本は、5～6回熟読しましょう。

そして何よりも「学び方を学ぶ」能力、英語で言うと「Learning To Learn(ラーニング・トゥ・ラーン)」の能力を身につけることです。

勉強は社会に出てからが本番です。自分なりの学習方法を少しずつでも身につけて、生涯にわたって自分の能力を強化し続けることが「人生の成功」、「多様な選択肢のある人生」を歩む上で大切かと考えます。

皆様は、どのようにお考えになりますか。

- 2009年5月17日記 -

塾長紹介

- ・宇都宮大学大学院工学研究科、客員教授
- ・マニー株式会社(手術用縫合針製造)、社外取締役
- ・栃木県社会教育委員(栃木県教育委員会)
- ・社団法人経済同友会(東京)、幹事

学力の身につけ方を考える

- 「学習の3段階理論」とは -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

「学習の3段階理論」とは、「学習を3つの段階に分け、効果の上がる学習方法を考えること」です。

2. 「理解」とは、うんなるほどよくわかる、納得する、腑(ふ)に落ちること

(1) 「授業」：学校や開倫塾の授業中は、姿勢を正し、手を机の上に置き、先生の目を見て話をよく聴く、授業に積極的に参加する。

必要なことはすべてノートを取ること

授業を妨げるもの... 「欠席」「遅刻」「早退」「忘れ物」「おしゃべり(私語)」「居眠り」「ボーッとすること」「携帯電話」「徘徊」

(2) 「自習」：自分の力で「理解」すること

辞書、事典、参考書、学校の図書室、公共の図書館の使い方を身につけること

授業終了後、自習をしてわからないことがあれば友達に質問すること。それでもわからなければ学校や開倫塾の先生に質問すること

授業前、つまり予習として自習をしてわからないことがあれば、「わからないことをはっきりさせて授業に臨む」こと。これが「予習」の本当の意味

3. 「定着」とは、一度「理解」したことを正確に身につけること

(1) 何も見ないで口をついてスラスラ正確に言えること(「暗誦・暗唱」)

↳ 「音読練習」が効果的

(2) 何も見ないで楷書で正確に書けるまでにすること

↳ 「書き取り練習」が効果的

(3) 一度理解し、なぜそうなるかがよくわかった計算や問題は、計算や問題を見た瞬間に条件反射でパッパッと正解が出るまでにすること

↳ 「計算・問題練習」が効果的

* 「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」を、「定着のための3大練習」と呼ぶ。

4. 「応用」とは、「理解」、「定着」した内容を自由自在に用いることができること

(1) 学校の定期テストで100点満点が取れる

↳ 学校や開倫塾の授業をよく聴き、また、積極的に参加し十分「理解」、「定着のための3大練習」で確実に「定着」することでOK

(2) 入試等の試験で合格点が取れる

↳ 「過去問」を5～10年分実際に解き、間違えた問題についてなぜ間違ったのか、「誤答分析」すること。同じ年度の問題を5～6回解くこと。

(3) 「理解」、「定着」したことを、社会での生活・活動に役立てることができる

5. 学力を身につけるための前提条件

(1) 「新聞を含む読書」で、「熟慮、熟考、省察、自省する能力」と「批判的思考能力」を身につけていること。(これぞという本は、5～6回読み直そう)

(2) 「学び方を学ぶ(Learning To Learn ラーニング・トゥ・ラーン)」の能力を身につけていること

自己学習能力の育成

6. 「鍵になるような基本的な学力」とは(「キー・コンピテンシー」とは)

(1) 「自律的に活動する能力」

高い倫理

(2) 「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」

高い学力

(3) 「多様な集団で交流する能力」

高い国際理解

7. 学力を身につける目的

(1) 自分の「人生の成功」(多様な選択肢をもった人生)

(2) 「持続可能な社会の形成」に少しでも役立つこと

* 学力は一生かけて身につけるべきもの

8. おわりに 参考になる言葉

(1) 「一生青春、一生勉強」(相田みつを先生)

(2) 「教育ある人とは一生勉強し続ける人」(ドラッカー先生)

(3) 「いつまでも若々しく生きる」(中村天風先生)

- 2009年5月17日林明夫記 -